

日本軍「慰安婦」制度と「日韓合意」

南京レイプが引き起こした軍性奴隸

日 時：5月30日（火）18：30開会（18：10開場）

場 所：難波市民学習センター第1研修室（OCAT・4階）
(JR 難波駅直上・地下鉄なんば西5分)

会場費：500円
<プログラム。

● 講演「慰安婦」制度と「日韓合意」の問題点
講師 ぱん・ちょんじゅ さん

●新証言DVD（松岡環制作・編集）
・兵士がかよった南京慰安所—酒井貞三さん
・被害者が語る南京性暴力— 張秀英さん



<講師プロフィール> ぱん・ちょんじゅ

1990年代に元日本軍「慰安婦」問題に取り組む。2009年「日本軍『慰安婦』問題・関西ネットワーク」の結成に参加し、現在共同代表。2010年には「日本軍『慰安婦』問題解決全国行動」の立ち上げにも参加。長年にわたり、「慰安婦」にされたハルモニたちを支援し交流を続けている。また歴史事実を否定する勢力には毅然と対峙し、認識活動を進めている。2015年に多田謠子反権力人権賞を受賞

講師・主催者からのメッセージ

●日本軍によって性奴隸・「慰安婦」にされた女性は、植民地朝鮮半島から強制的に連行や騙された少女たちが圧倒的に多い。日本軍将兵に性病を再感染させないよう性体験のない少女が狙われたことは周知のとおりである。中国大陸では現地の女性たちが捕えられ、アジア地域では同じく女性たちが、日本軍兵士たちの性奴隸を強いられた。1991年韓国の「金学順」さんが初めて「自分が慰安婦にされたのだ」と告白された。

その後多くの元「慰安婦」だったと名乗り出る女性が続出した。しかし、日本の歴史修正主義者や多くの保守政治家が「慰安婦」「南京大虐殺」「強制連行」等の歴史事実を歪曲し、打ち消す行動を組織的・強力的に推し進め現在に至る。

昨年末の「日韓慰安婦問題の合意」は被害者の頭越しに全く無視したもので、積み残した問題は大きい。ぱんさんは、歴史事実と被害女性の痛みを訴えつづける。

●南京レイプと「慰安婦」制度・軍性奴隸の関係性は、非常に強大だ。銘心会南京は、南京攻略戦に参戦した日本軍兵士250名と南京攻略戦途上と南京で被害をこうむった被害者300人以上の調査を行ったが、集団虐殺とレイプが突出している

主催：南京80周年準備会（問合先：090-6609-0972）

*日中友好協会大阪府連合会も準備会に参加しています。